

ステレオレコードプレーヤー

PL-50L

取扱説明書



このたびはパイオニアのPL-50Lをお買い求めいただきましてありがとうございます。

この製品はパイオニアの長年の技術と経験を生かして一貫した品質管理のもとに設計、生産されたステレオレコードプレーヤーです。

ステレオコンポーネントを正しく接続、操作してステレオ演奏を楽しんでいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになった後は保証書と一緒に保管し、使用中にわからない事があったときに手引きとしてご利用ください。

目次

アフターサービスについて	2
特長	2
ご使用前に	3
各部の名称	4
組立	5
設置について	7
ステレオアンプへの接続	7
トーンアームの調整	8
各部の名称と使い方	11
演奏のしかた	12
ダンピング機構の効果的な使い方	13
保守	14
本機の輸送について	14
故障？ちょっとお調べください	15
仕様	16

PIONEER®

アフターサービスについて

- 故障と思われるときは、修理を依頼される前に必ず15頁の“故障？ ちょっとお調べください”の事項を確認してください。意外な操作ミスが故障と思われる場合があります。
- 保証期間はご購入日より1年間です。万一故障が生じたときは、本機の電源コードをコンセントから抜き、付属のサービスネットワークをご覧の上お近くのパイオニアサービスセンター、サービスステーションに電話で下記事項をご連絡ください。保証書に記載されている保証規定および修理規定に基づき、修理させていただきます。
 1. 品名、型番……「レコードプレーヤーPL-50L」
 2. 故障の内容……「ターンテーブルがまわらない」「音がでない」……など
 3. お買い上げ年月……○年○月
 4. お名前、住所、連絡先電話番号
 5. ご希望訪問日……○月○日
 6. ご自宅までの道順と目標物(建物、公園など)
- 保証期間(1年間)経過後の修理については、最寄りのパイオニアのサービスセンター、サービスステーション、またはお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理します。
- 本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。

- 最低保有期間は通商産業省の指導によるものです。
- 補修用性能部品とは、この製品の機能を維持するために必要な部品です。

本機に関するご質問、ご相談は最寄りのパイオニアオーディオインフォメーションセンター(AIC)をご利用ください。なお、AICの所在地および電話番号は、付属のサービスネットワークをご覧ください。

特 長

本機は、レコードプレーヤーの基本部品となるフォノモーター、トーンアーム、キャビネットを、個々の持つ性能、機能を音質本位に徹して追求し、各部品単体としても優れた性能を持つものを作り上げました。また、レコードプレーヤーシステムとしても高忠実度再生を実現し、オーソドックスなシステムを形成するとともに、操作性を考慮した操作スイッチ配慮など、シンプルなデザインの高級感、重量感あふれるレコードプレーヤーです。

Quartz PLLブラシレスDCホールモーター

モーターの回転子に組み込んだ周波数発電機の出力波形と、水晶振動子を用いた高精度基準発振器の波形を比較してモーターの回転数を制御するQuartz PLL方式を採用。時間、温度ドリフト特性や耐負荷特性が優れているため、常に正確な回転数を維持します。

SHローター方式の軸受構造

フォノモーターの回転数精度や、耐負荷特性の優れたQuartz PLLダイレクトドライブホールモーターに、回転軸部の重心を低く設定したSHローター(stable hanging rotor)方式の軸受構造を採用しました。これにより、慣性質量 $330\text{kg}\cdot\text{cm}^2$ (ゴムシート含む)のターンテーブルの組み合わせとあいまって、0.012%以下(FG法)の優れたワウフラッター特性を実現しました。

ダンピング機構付の高性能トーンアーム

トーンアームの軽等価質量化に加え、質量を回転軸に集中したマスコンセントレーション方式と、高信頼性のシリコンオイルを使用したダンピング機構(解除可能)を装備したことによって、トレース能力の向上と低音域の大振幅再生時に発生する混変調歪を大幅に低減しています。

オートアップ/オートストップ機構とクイックストップ機能

演奏が終了すると、自動的にトーンアームが上昇し(オートアップ)、ターンテーブルの回転が停止(オートストップ)します。また、ターンテーブル停止時は、モーターの回転方向と逆方向の電流をモーターコイルに流して、瞬時に停止させる純電子式のクイックストップ機能を装備しています。

ハウリングに強い低重心型インシュレーター

振動を吸収するインシュレーターの構造を、高い位置に設定し、キャビネットやターンテーブルの重心が低い位置になるようにしています。このため、プレーヤー本体が安定し、床からの振動やスピーカーシステムからの音圧の影響を受けにくく、高いハウリングマージンを得ています。

ご使用の前に



保証書の手続きについて

- お買い求めの際、必ず購入店で保証書に「販売店名」、「販売年月日」を記入の上お受け取りください。



取扱説明書、保証書の利用と保存について

- 本機の性能や機能を、十分に発揮させてレコード演奏をお楽しみいただくために、ご使用前に取扱説明書を最後までお読みください。お読みになったあとは保存して、使用中不明な点が生じたときや、本機の保守、点検などにご利用ください。
- 保証書は、記載事項を良く確認してから取扱説明書、サービスネットワークと一緒に大切に保存してください。保証書を紛失されると、保証期間中であっても保証が無効となり、無償で修理が受けられなくなることがあります。



電源および電源周波数

- このプレーヤーは交流(AC)100V用です。一般家庭の100V電源でご使用ください。なお、交流電源を直流にしてモーターに加えていますので国内であれば電源周波数が50Hz、60Hzのどちらの地域でもお使いになれます。



電源コードの取り扱い

- ぬれた手で電源プラグを取り扱わないでください。感電する場合があります。大変危険です。
- 電源コンセントから電源コードを抜く場合はプラグ部を持って行ってください。コードを持って引っ張るとコードが破損する原因になります。
- 電源コードを、本機や他のステレオ機器などの下に敷いたりして傷つけないようご注意ください。また別のコードとより合わせてつないだり、むすび目をつくることもおやめください。以上のような状態で使用すると、火災や感電の危険があります。



設置、接続について

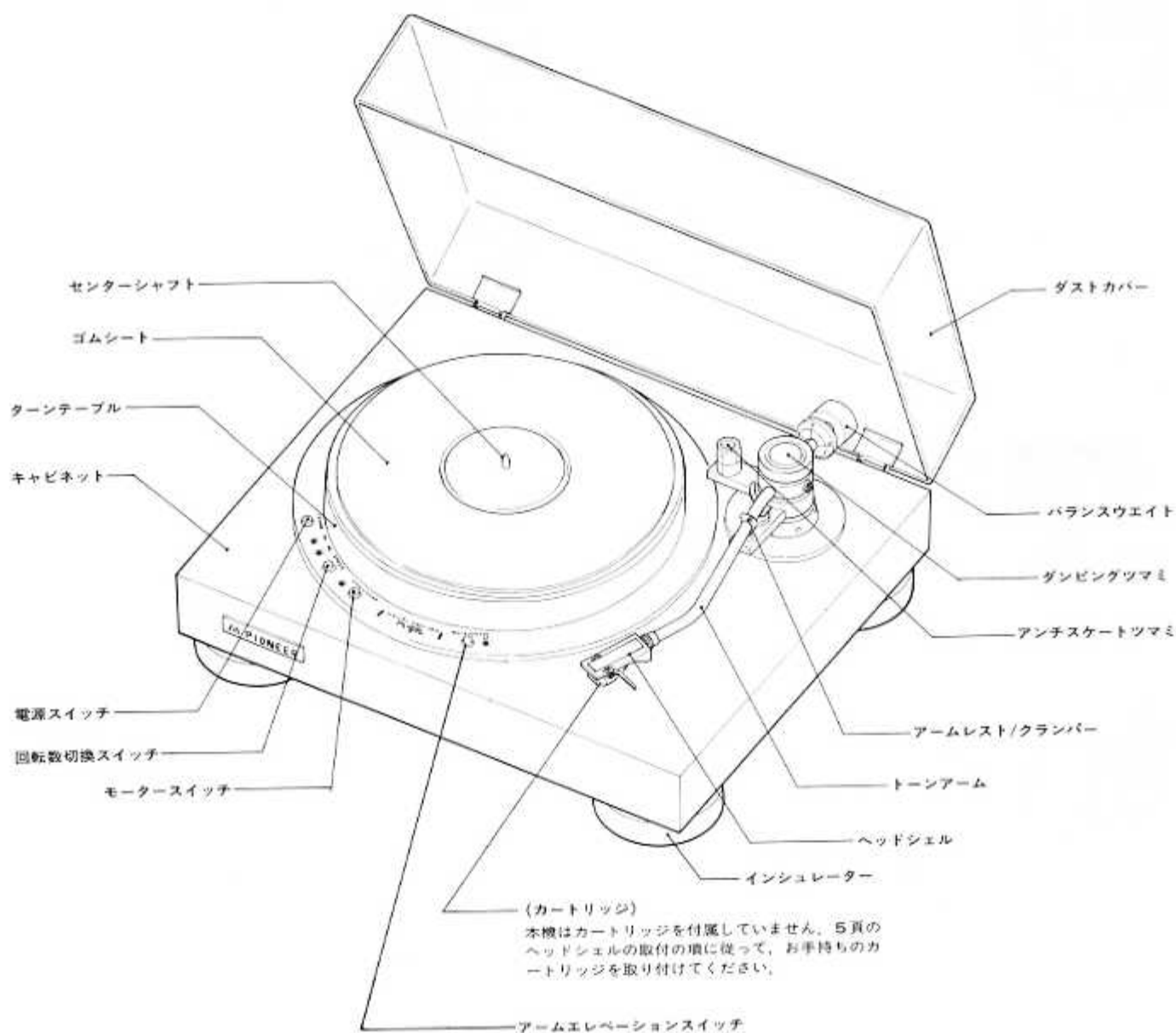
- このプレーヤーの設置、接続は7頁を良く読んでから行ってください。不完全な設置方法や接続を行うとハウリングや針飛び、ハムなどが発生して、レコードを忠実に再生することができません。



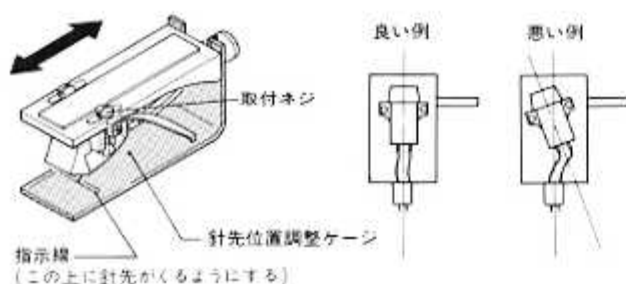
取扱上の注意

- モーターを回転させる場合は必ずターンテーブルを取り付けてください。ターンテーブルを取り付けないとモーターは正常に回転しません。
- カバーを外して内部に触れたり、改造することは絶対にしないでください。改造した場合の性能および故障については、当社では保証できません。
- このプレーヤーを冷えきった状態のまま暖かい室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりしますと動作部に露が生じ、本機の性能を十分発揮できなくなる場合があります。このような場合には1時間程度放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。
- 50Hz地域では、このプレーヤーのターンテーブルに市販のストロボスコープをのせ、一般家庭のけい光灯で見ると45回転の線が流れて見えます。市販のストロボスコープは50Hz、45回転においてコマ数が計算上割り切れないために端数を切り捨てています。このため正しい回転に対しては、ある程度の誤差を生じそのぶんだけ線が流れて見えます。

各部の名称

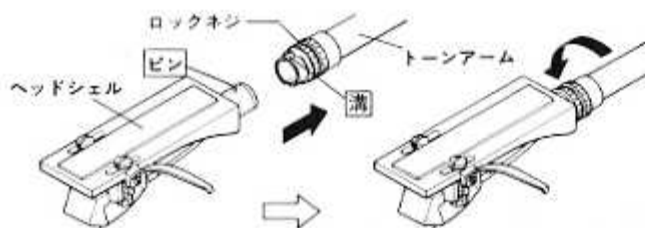


3. 付属の針先位置調整ゲージを、図のようにヘッドシェルにセットし、ゲージの指示線に針先がくるようにカートリッジを前後に動かして調整します。
次に、カートリッジがヘッドシェルに対して曲がりのないことを確認し、取付ネジを付属ドライバーで締め付けて固定します。



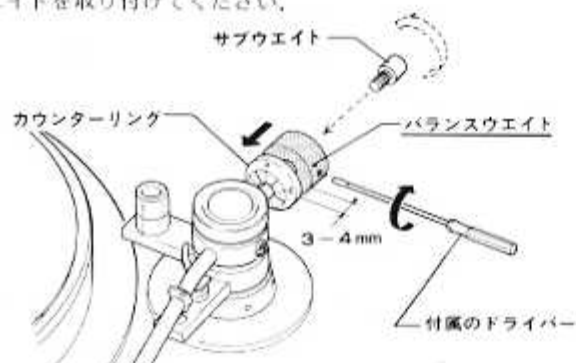
ヘッドシェルを取り付ける

トーンアームの先端の溝とヘッドシェルのピンを合わせてヘッドシェルを確実に差し込んでから、ロックネジを図の矢印の方向へ止まるまで回して固定します。



④ バランスウエイトの取付

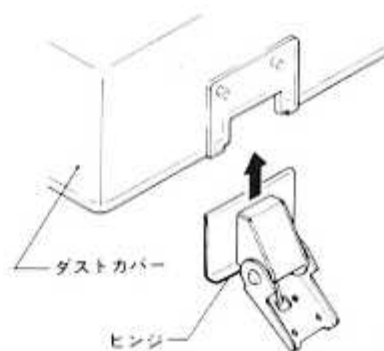
バランスウエイトを、トーンアーム後端のカウンターリングに差し込みます。次にウエイトとカウンターリングのすき間が3~4mm(カートリッジの自重により多少すき間を変えた方がよい場合があります)になるようにウエイトの位置を調整し、付属のドライバーでネジを回して確実に固定します。
カートリッジの重さが10g~13gの場合は、図のように付属のサブウエイトを取り付けてください。



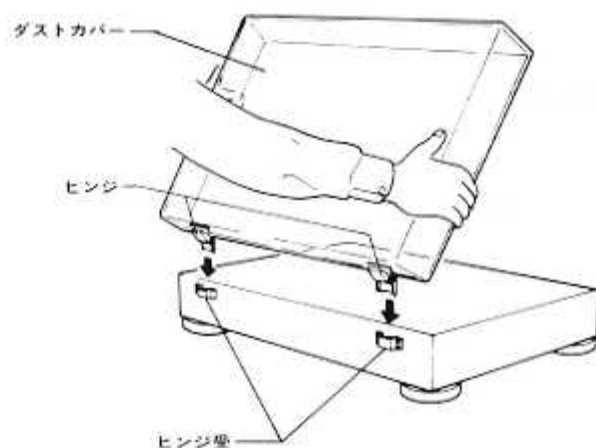
自重13g以上のカートリッジ(オルトフォンSPU/GTなど)をご使用の場合は、別売のバランスウエイトJP-507をお買い求めの上、取り付けてください。

⑤ ダストカバーの取付

1. 付属のヒンジ(2個)を、図のようにダストカバーへ差し込んで取り付けます。



2. 両手でダストカバーを持ち、キャビネットの後側のヒンジ受へ、ダストカバーに取り付けたヒンジを差し込み、下へ押し込みます。

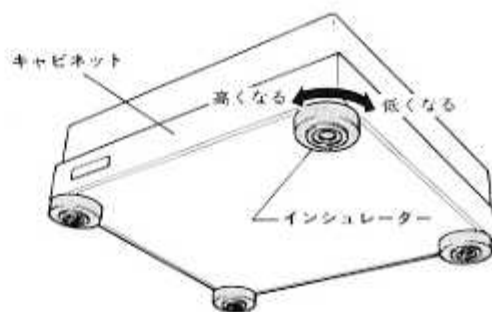


設置について

- 本機は重いので、設置するときは、取り扱いに十分気を付けてください。
- トーンアームを正しく調整するために、トーンアームの調整を行う前に設置してください。

キャビネットの高さ(水平)調整

1. 本機を設置します。
2. 図を参考にして、各インシュレーター(4個)を回してキャビネットが水平になるように調整します。なおインシュレーターは、キャビネットを少し持ち上げてから回してください。



設置上の注意

- 本機の性能を十分発揮させて正常なレコード演奏をお楽しみいただくために、下のような事項に注意してください。

性能の低下や故障の原因になりやすい場所	症状と危険性
1. 直射日光を受けたり、暖房器具などからの発熱を受ける場所、寒冷地で温度が極端に変化する場所。	1. 周囲温度が上昇したり、急激に低下すると回転部やカートリッジに悪影響を与える。また、温度の極端な変化により動作が不安定になることがある。
2. 傾斜があり、水平を保てない場所。	2. 適正な針圧値が得られなくなり、正常な動作を妨げる。
3. ゴミやホコリの多い場所。	3. 静電気を帯びたレコードの音みぞにゴミなどが付着し、スクラッチ録音(パチパチという音がでる)の原因となる。
4. 振動の多い場所、特にスピーカーシステムのそばなど。	4. スピーカーからの振動が床を伝わり、プレーヤーを振動させてハウリング現象を起こす(スピーカーからウォーンという音がでる)。
5. ベンジンやシンナーなどが近くにある場所。	5. ガストカバーやキャビネットの表面が侵されたり変色する。
6. 塩気の多い場所。	6. 各部品に錆が発生して、正常な動作を妨げる。

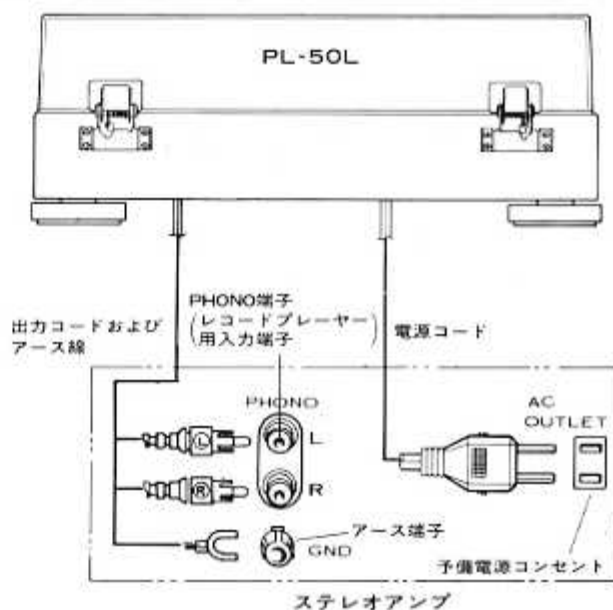
ステレオアンプへの接続

接続の前に

- 接続するステレオアンプの電源スイッチを切ってください。
- 特に、低出力のMC型カートリッジをお使いになる場合は、MCトランスやMCアンプ内蔵のステレオアンプが必要になりますので、カートリッジやアンプの取扱説明書に従って接続してください。

接続手順

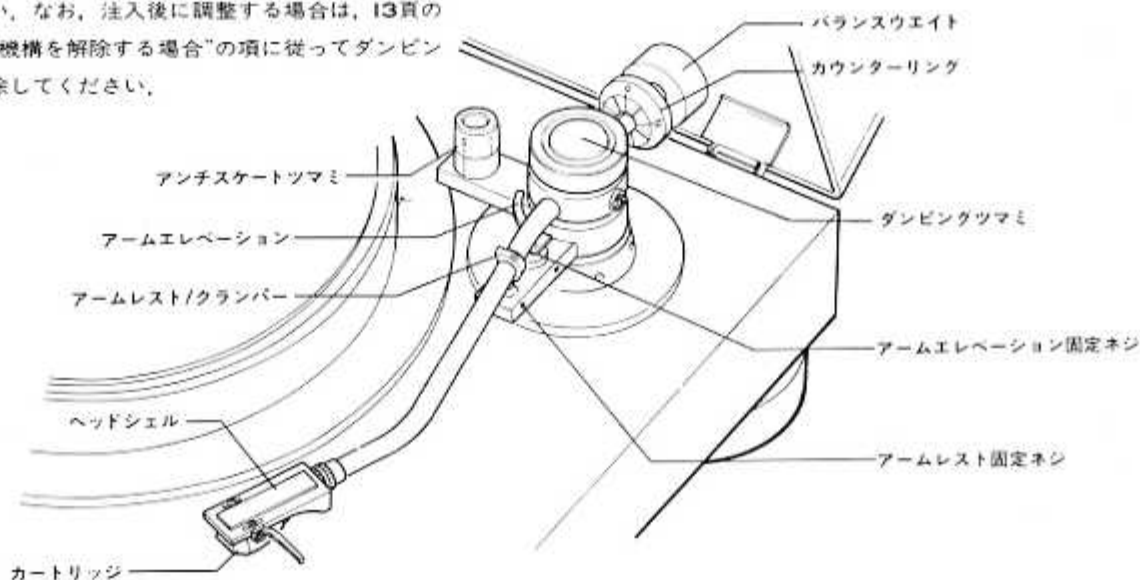
1. 本機の出カコードを、ステレオアンプのPHONO端子に差し込みます。このとき白いプラグを左チャンネル(L)、赤いプラグを右チャンネル(R)につないでください。
2. 出カコードのアース線をステレオアンプのアース端子(GND)につなぎます。
3. 電源コードをステレオアンプの予備電源コンセント(AC OUTLET)、または壁などの電源コンセントにつなぎます。



トーンアームの調整

- トーンアームの調整は、レコード盤の再生音に大きな影響を与えます。本機の組立や設置、ステレオアンプへの接続が完全に終わってから、正確に行ってください。
- 調整は、制動用オイルをトーンアームへ注入する前に行ってください。なお、注入後に調整する場合は、13頁の“ダンピング機構を解除する場合”の項に従ってダンピング機構を解除してください。

- カートリッジやヘッドシェルを交換して、トーンアームの調整をし直す場合は、5頁の“ヘッドシェルの取付”の項に従って針先位置の調整や、トーンアームへの取付が終わってから調整してください。

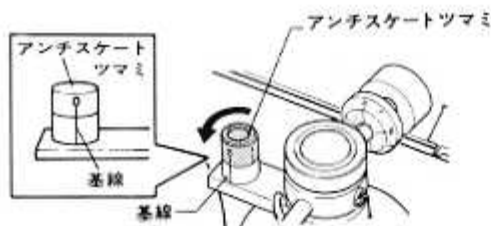


1] 針圧の調整

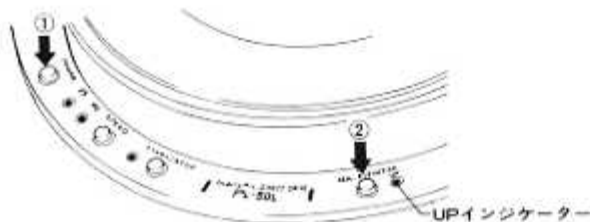
針圧の調整は正確に行ってください。正しく調整されていないと、再生音がひずんだり、針飛びを起す場合があります。

水平バランスを調整する

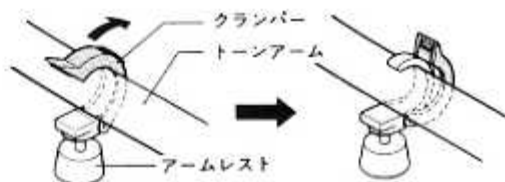
1. アンチスケートつまみを図の矢印の方向に回して、“0”の位置を基線に合わせます。



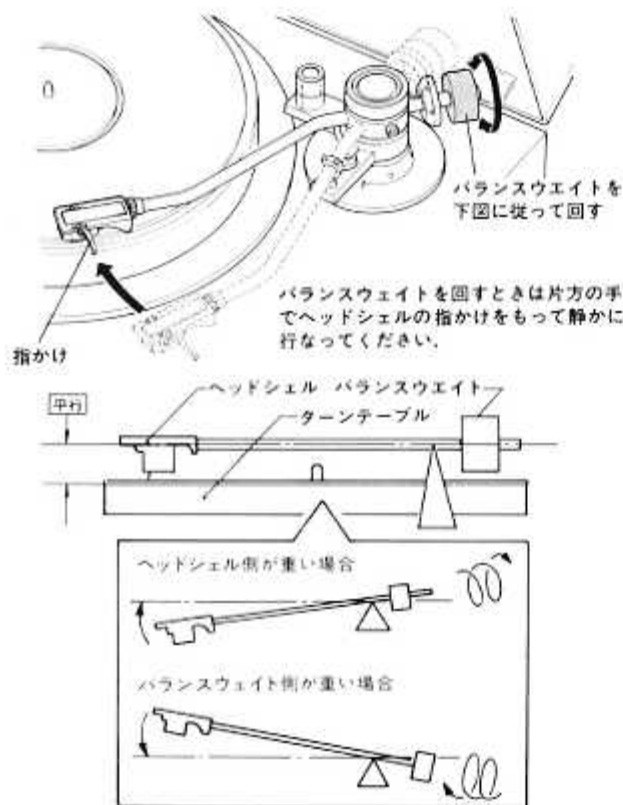
2. 電源スイッチ①を押して電源を入れ(ON)、次にアームエレベーションスイッチ②を押します。このとき、アームエレベーションスイッチのUPインジケータが消えます。



3. カートリッジに針カバーが付いている場合はカバーを外します。
4. アームレストのクランパーを、図の矢印の方向へ動かします。このとき、トーンアームの固定が解除されますのでトーンアームが動き出します。針先をターンテーブルなどにぶつけて破損しないようにトーンアームを押えてください。



5. ヘッドシェルの指かけを持ち、トーンアームをターンテーブルまで静かに移動します。なお、水平バランスの調整が終わるまで、カートリッジの針先がゴムシートに触れないように、手でトーンアームを支えてください。
6. 5項の状態のまま、もう一方の手でバランスウエイトを持ちます。図に従ってバランスウエイトを左右に回し、トーンアームがヘッドシェル側にも、バランスウエイト側にも傾かないで、ターンテーブルと平行になるように調整します。



- アンチスケートつまみが“0”以外の場合、アンチスケート機構が働いてトーンアームが右側(アームレストの方向)へ流され、調整できません。必ず“0”の位置で行ってください。なお、“0”のときでも左右へわずかに流れることがありますが、これは、演奏時にトーンアームがレコード盤の音みぞを良くトレースするように、トーンアームの回転感度を高くしているためで、使用上の支障はありません。
- バランスウェイトを回しても水平バランスが取れない場合は、バランスウェイトの固定ネジを付属のドライバーでゆるめて、取付位置を前後に変えてみてください。

7. トーンアームをアームレストに戻し、クランパーでトーンアームを固定します。

針圧を加える

1. カウンターリングを回して、ウェイト軸の基線に“0”を合わせます。このとき図のように、もう一方の手でバランスウェイトが一緒に回らないように押えてください。バランスウェイトが一緒に回ると水平バランスがくずれ、針圧が正しく加わらなくなります。



2. バランスウェイトのみをつかんで図のように矢印の方向へ回すとカウンターリングも同時に回ります。カウンターリングの目盛がカートリッジの適正針圧と同じ数値になるようにウェイト軸基線に合わせます。カウンターリングの目盛は1目盛0.1gで、バランスウェイトを1回転させると1gの針圧が加わります(例:針圧2gの場合はバランスウェイトを2回転させます)。

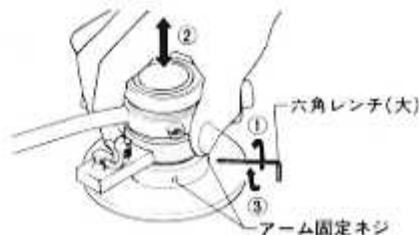
別販売のバランスウェイト JP-507をご使用の場合は、1目盛が0.15gになりますのでご注意ください(0.2の位置で0.3g、0.6の位置で0.9g、ウェイト1回転で1.5gの針圧が加わる)。



②高さの調整

トーンアームの高さが正しく調整(レコード盤と平行の状態)されていないと、カートリッジの針先がレコード盤の音みぞに正しい角度で接しないため、再生音がひずむことがあります。

1. ターンテーブルの上にレコード盤を1枚のせます(ゴムシートを必ずレコード盤の下に敷いてください)。
2. トーンアームを移動して、カートリッジの針先をレコード盤の上へ静かにのせます。
3. 図のようにトーンアームを持ち、アーム固定ネジ(2箇所)を付属の六角レンチ(大)で矢印の方向①へ回してゆるめます。次に、図の印部を持ってトーンアームを上下②に動かし、トーンアームがレコード盤と平行になるように調整します。
4. 3項の状態のまま、アーム固定ネジを③の方向へ回して締め付け、トーンアームを固定します。このとき、アーム固定ネジは後側のネジから締め付けてください。

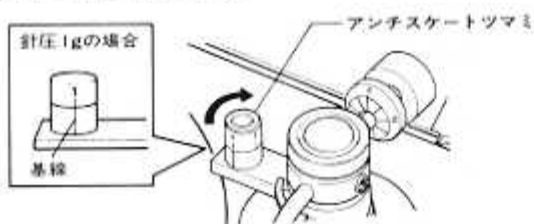


- トーンアームを上下に動かすときは、必ず印のところを持ってください。印部以外を持つと、トーンアームの動作に影響を与えます。
- トーンアームを上下に動かすときは、針先でレコード盤を傷つけないように注意して行ってください。

5. トーンアームをアームレストへ戻し、クランパーで固定します。

③アンチスケーティングの調整

アンチスケートつまみを図の矢印の方向へ回し、加えた針圧と同じ数値を基準に合わせます。



アンチスケーティング機構とは

レコード演奏時、針先はレコード盤の回転により内周方向へ引っ張られる力(スケーティングフォース)を生じ、右チャンネルのトレース能力の低下や、ひずみの増加などで再生音に悪影響を与えます。この力と反対方向に打消す力を加えて補正するのが、アンチスケーティング機構です。

④制動用オイルの注入

ダンピングつまみを外す

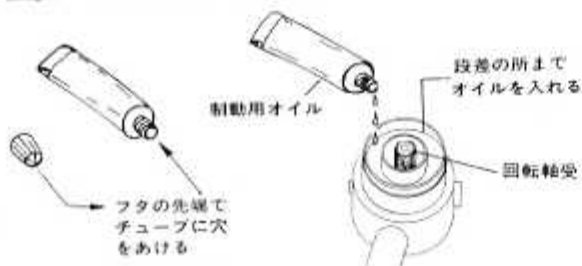
1. ダンピングつまみを止まるまで引き上げます(図A)。
2. つまみを反時計方向(⇨)に回します(図B)。
3. つまみを引き上げてください。つまみはトーンアームから外れます(図C)。
4. 制動オイル注意ラベルを取り去ってください(図D)。

①つまみを持ち上げる ②反時計方向に回す ③つまみを外す ④制動オイル注意ラベル



オイルを注入する

1. 図のように、付属の制動用オイルのチューブにフタの先端で穴をあけます。そして、トーンアーム本体の制動オイル注意ラベルの入っていた溝に注入していきます。



2. 段差の部分までがオイルの適量です。オイルが図のように段差のところまで入ったら注入をやめてください(注入したオイルの表面が平らになるまでにやや時間がかかります)。オイルの入れ過ぎや不足は、ダンピング機構が正常に働かない原因となります。また回転軸受内やつまみ取付軸にはオイルを付着させないでください。感度不良を起す場合があります。

回転軸内に間違ってもオイルを入れた場合は、お買い求めの販売店または、パイオニアのサービスセンター、サービスステーションへ御相談ください。

ダンピングつまみを取り付ける

1. ローレット部のみぞがピンに接触するように図Aの矢印方向にローレット部を回します。
2. つまみの中の溝部と、トーンアームのつまみ取付軸に付いているピンの位置を合わせ、止まるまで押し下げます(図B)。
3. つまみを図の矢印(⇨)に止まるまで回します(図C)。
4. つまみを止まるまで押し下げます。この状態でダンピング機構が働きます。なお、つまみが下がらない場合は、つまみを左右どちらかへ少し回してから押し下げてください(図D)。



ダンピング機構の取扱上の注意

- オイル注入後は、絶対に本機を傾けないでください。オイルが回転軸の内部に流れ込んだり、外へ流れ出る場合があります。もし流れ出たときは、素早く布やティッシュペーパーなどで拭き取ってください。
- ダンピングつまみ取付後も傾けたり、つまみを取り外さないでください。オイルが回転軸内へ流れ込み使用不能となります。特に移動する場合には、水平状態を保ったままで十分注意しながら行ってください。
- 本機を遠方へ移動するときや、引っ越しの場合は、必ず14頁の“本機の精選について”の項に従ってください。

各部の名称と使い方

電源スイッチ(POWER)

本機の電源をON、OFFするときに使います。スイッチを押し込むと電源が入ります(ON)。このとき、回転数切換スイッチのインジケータ(33)が点灯します。スイッチを押し戻すと、電源が切れます(OFF)。

本機を使わないときは、必ず電源スイッチをOFFにしてください。

回転数切換スイッチ(SPEED)/インジケータ

レコード盤のスピードに合わせて、ターンテーブルの回転数を切り換えるときに使います。スイッチを押すと、次のようにターンテーブルの回転数が変わります。

33のインジケータが点灯する場合

33・ $\frac{1}{2}$ rpmで回転します。33・ $\frac{1}{2}$ rpmのレコード盤を演奏するときにこの位置にしてください。

45のインジケータが点灯する場合

45rpmで回転します。45rpmのレコード盤を演奏するときにこの位置にしてください。

クォーツロックインジケータ

ターンテーブルが33・ $\frac{1}{2}$ rpm、または45rpmの規定回転数で回っているときに点灯します。

回転数切換スイッチを操作して回転数を切り換えたときや、ターンテーブルを手などで押えてターンテーブルの回転数が一時的に変動した場合、インジケータは消えますが、正常な回転数に戻ると点灯します。

モータースイッチ(START/STOP)

モーターの電源をON、OFFするときに使います。ターンテーブルが停止しているときにスイッチを押すと、モーターの電源が入り、ターンテーブルが回り始めます(START)。ターンテーブルが回転しているときに押すと、モーターの電源が切れてターンテーブルが止まります(STOP)。このとき、プレーキ機構が働いて瞬時にターンテーブルが止まります。

ターンテーブル/ゴムシート

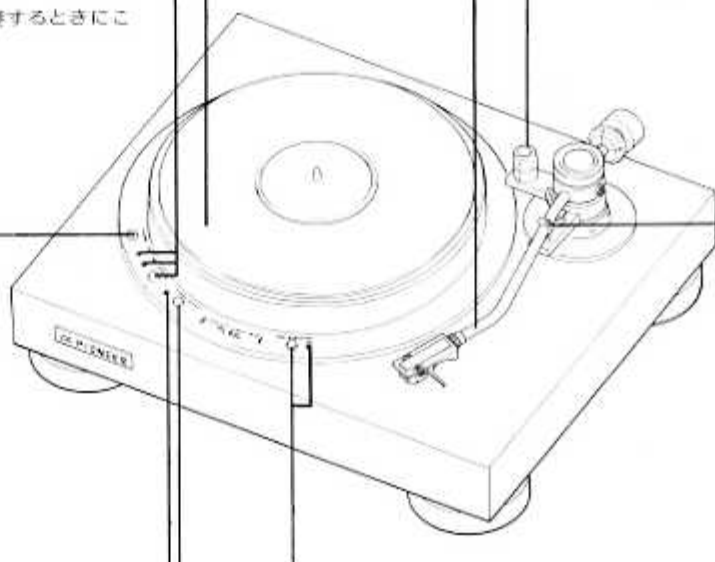
演奏時に、回転数切換スイッチに応じた回転数で回ります。ゴムシートは、レコード盤を安定させ、外部からの振動を吸収します。

トーンアーム

カートリッジに適正な針圧を与え、正確に保持してレコード盤の音みぞを確実にトレースさせます。

アンチスケートツマミ

レコード演奏時に発生する、有害なスケーティングフォースの打消し量を針圧に応じて調整します(10頁のアンチスケーティングの調整参照)。



アームエレベーションスイッチ(ARM-ELEVATION)/インジケータ(UP)

演奏を行うときや、演奏を中止するときに使います(12~13頁を参照)。スイッチを押すと、トーンアームが次のように動作します。
UPのインジケータが点灯する場合(UP)

トーンアームが上がります。

UPのインジケータが消える場合(DOWN)

トーンアームが下がります。

-
- スイッチは、交互にUP、DOWNに切り換わります。
 - 電源スイッチをON、OFFにしたときは、常にUP状態となります。
 - 演奏するときは、必ずDOWNの状態で行ってください。
-

アームレスト/クランパー

トーンアームを支えます。演奏しないときは、クランパーでトーンアームを固定しておきます。

演奏のしかた

演奏の前に

演奏を始める前に、必ず次の操作を行ってください。

ステレオアンプの操作

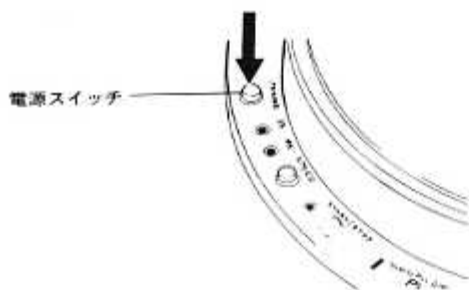
1. 音量ツマミ(ボリューム)を最小の位置にします。
2. 電源スイッチ(パワー)を入れます。
3. 入力切換スイッチ(ファンクション)をPHONOの位置にします。

本機の操作

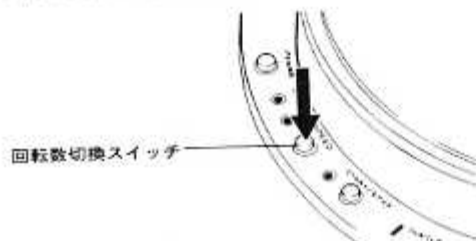
1. ダストカバーを開き、ターンテーブルにレコード盤をのせます。
2. カートリッジの針カバーを外してから、アームレストのクランパーを操作してトーンアームの固定を解除します。

演奏の開始

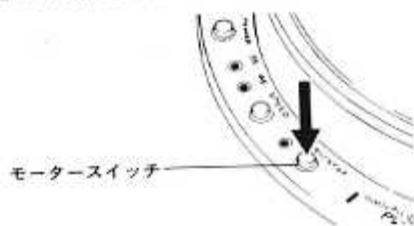
1. 電源スイッチ(POWER)を押して、電源を入れます(ON)。



2. 回転数切換スイッチ(SPEED)を、レコード盤に合わせて切り換えます(33または45)。



3. モータースイッチ(MOTOR ON/OFF)を押してSTARTにします。ターンテーブルが回り始めます。次に、ヘッドシェルの指かけを持ち、トーンアームをレコード盤の演奏する位置まで移動します。



4. アームエレベーションスイッチを押し、アームをDOWNにします。トーンアームが静かに降下して演奏を開始します。



5. ダストカバーを静かに閉め、ステレオアンプで好みの音量や音質に調整して、レコード演奏をお楽しみください。

演奏の終了

1. 最終の曲が終わると、自動的にトーンアームが上昇してターンテーブルが止まります(オートアップ)。
2. ヘッドシェルの指かけを持って、トーンアームをアームレストまで戻します。
3. トーンアームをクランパーで固定してから、針カバーをカートリッジに取り付けます。
4. レコード盤を外します。
5. 本機の電源スイッチを押し戻して電源を切り(OFF)、ステレオアンプの電源スイッチを切ります。

● 本機を使用しない場合は、必ず電源スイッチを切ってください。

レコード盤の手入れと保管について

レコード盤のソリやキズ、ホコリやゴミが付着したままの使用は、再生音に悪影響を与えます(ソリ、キズは針飛びや雑音、ホコリの付着は音がはずんだり、針飛びの発生原因となります)。次の事項に注意してていねいに取り扱ってください。

- レコード盤を持つときは、音みぞの部分に直接触れないようにしてください。
- 使用前と使用後は、必ず良質のクリーナーでホコリやゴミを取り除いてください。

- 保管場所は、温度、湿度の高い所を避け、直射日光の当たらない場所を選んでください。また、すき間がでさないようにレコード盤を垂直に立てて、何枚も重ねて保管するのが理想的です。横に積み重ねて置くとソリが発生する原因となりますので注意してください(この場合は2~3枚が限度です)。
- レコード盤にキズやホコリが付かないように、定期的にプレーヤー本体やゴムシートの清掃を心掛けてください。

